



真道 黎明「飛天」
(しんどう れいめい)

1960年制作 1897～1978・宇土市出身。本名は重彦(しげひこ)。
当初は、洋画を志し太平洋洋画研究所などで学んでいましたが、大正4 年より日本美術院研究会員となり日本画に転向しました。堅山南風、横山大観、安田靉彦、小林古徑らに指導を受け、翌年、院展初入選。以降、院展に出品を続け、晩年の昭和50年に院展内閣総理大臣賞を受賞しました。独自に中国、朝鮮に度々と外遊して東洋美術の造詣を深め、神秘的な風景画の画風を確立し、米国や欧州でも個展を開くなど国際的にも評価されています。



黛 敏郎「昭和天皇御製の調べ」
(まゆづみ としろう)

1929～1997・神奈川県出身
20世紀日本のクラシック音楽・現代音楽界を代表する音楽家の一人。1964年より終生にわたり、音楽番組『題名のない音楽会』司会者としても広く周知されました。
昭和60年5月、昭和天皇をお迎えして、第36回全国植樹祭を阿蘇の森で催されました。その折に本校のマンドリンクラブが総曲「はなしのふ」を演奏する光栄に浴しました。その演奏に感激された陛下は後に御製を御下賜。御製はその後、黛敏郎氏のより美しい調べが添えられ、歌い継がれています。



「鐘」

平成23年暮れの中高新校舎への引っ越しの際、校長室の古い本棚の最下段の奥から見つけました。当時「鐘つきオハルさん」の愛称で生徒達に親しまれた、給仕の斉藤ハルさんという方がおられ、現在のチャイムが導入される以前の昭和30年代まで、日常の始業や終業などの合図に使われていた鐘です。
鐘の製作年や制作会社、本校に購入された年代は分かりませんが、鐘を吊るす金具をフランスから取り寄せて、中高2号館2Fロビーに取り付けました。
50余年の時を経て、本校の校舎やここに集う人々は変わりましたが、鳴り響く鐘の音は、当時この九品寺キャンパスで鳴り響いていた音と同じです。



明治のオルガン「ヤマハ国産リードオルガン」

平成5(1993)年から校史資料室で4台のオルガンを保管していました。平成8(1996)年、そのうちの2台が明治40(1907)年、41(1908)年頃に製造されたヤマハの国産リードオルガンであることがわかりました。
国産のリードオルガンは明治23(1890)年頃から製造が始まりました。しかし、古い楽器は関東大震災などで、ほとんど残っていません。このオルガンは昭和25(1950)年頃まで使っていたそうです。電気がなかった頃の名残で両端に明かり取りである燭台(しょくだい)がついています。九州の記念館などで公開中のオルガンでは最古のものです。
平成8年、九州のテレビ局が協力して、『We Love 九州』というテレビ番組(30分)を製作しました。
テレビ熊本(TKU)では「大合唱 よみがえったオルガンの音」というタイトルの番組を作りました。この中で、オルガンが紹介されました。この番組を見ておられた方々から相当の反響がありました。
また、平成8年10月に開催された県民文化祭のイベント「明治は語る展」にこのオルガンの出品依頼があり、会場に展示するとともに演奏が行われました。その後は資料室で大切に保管されています。
平成23(2011)年10月8日、本校の「校舎への感謝とお別れ会」を開催するにあたり、記念事業としてオルガンの修復を行いました。ここに明治時代を彷彿とさせるオルガンが見事に蘇りました。

後 塞

明治21年の学園創立から130年を迎え、記念の一環としてこの特集号を発刊するに至った。学園の歴史は、明治、大正、昭和、平成と続き、今年は改元され新たな元号となる。現在の学園を見て、佐々友房、内藤儀十郎の両翁は如何に感じられるであろうか。時代の変化に応じ、「変えるべきものと変えざるべきものは何か」を自問自答し、この命題に解を見出さなければならない。明日の、いや永久に続く学園の将来に向けて・・・ (H.K)

○皆様のご意見・ご感想をお寄せください。 編集・発行/尚綱学園 編集スタッフ/黒瀬英夫、松野多恵子、増本紗希、西村奏美、木庭敦子、古澤千鶴、木村杏莉
〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78 TEL.096-364-0116 FAX.096-363-6520 メールアドレス koho@shokei-gakuen.ac.jp



SHOKEI

学校法人
尚綱学園

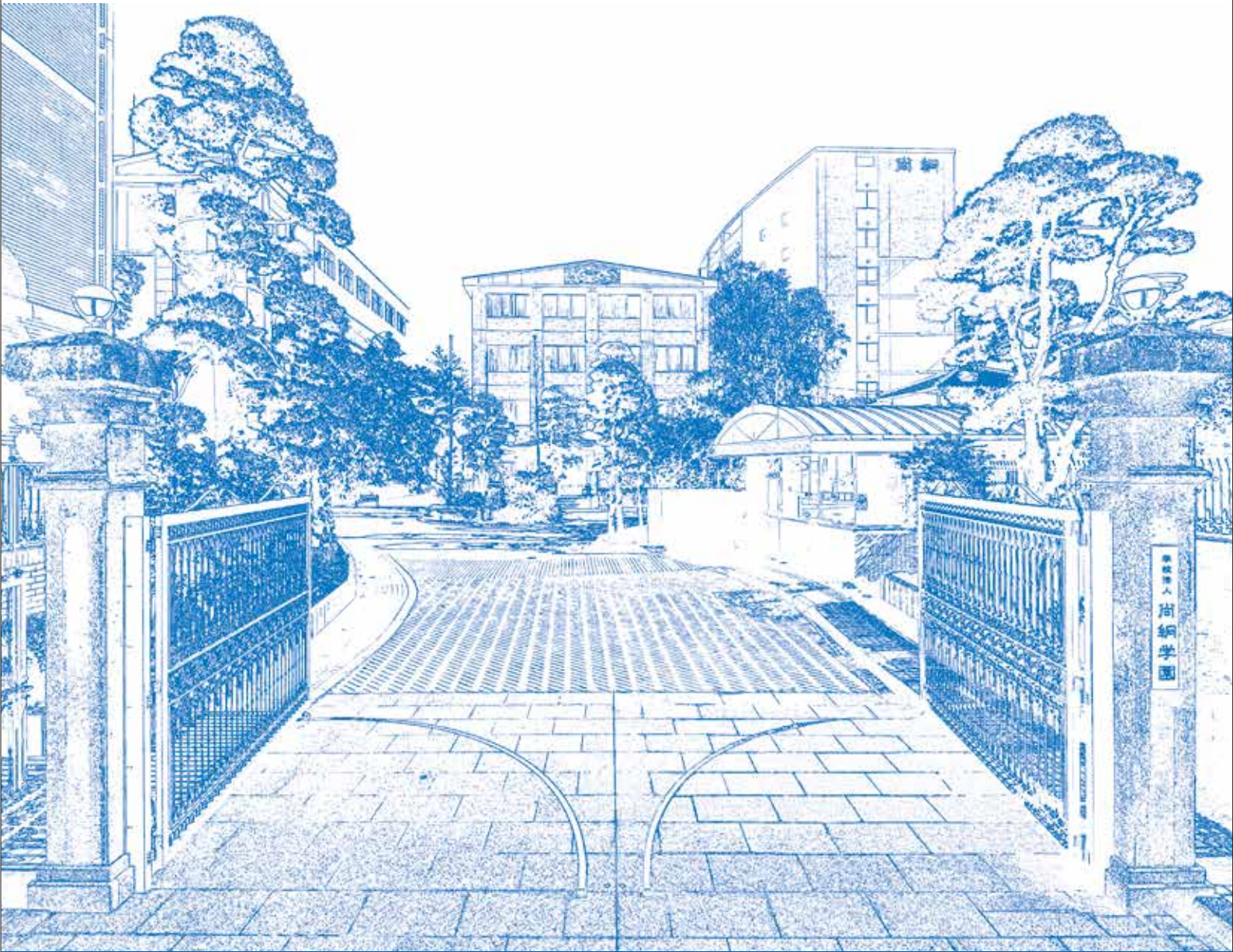
尚綱大学 尚綱大学短期大学部
尚綱高等学校 尚綱中学校 (中高一貫)
幼保連携型認定こども園
尚綱大学短期大学部附属こども園



尚綱学園広報誌

Vol.30

礎
ISHIZUE



学園創立130周年記念特集号



SHOKEI

尚綱学園



創立130周年を振り返って

本学園は、明治21年に創設された済々黌附属女学校をその源とし、平成30年に、創立130周年を迎えました。現在では、大学、短期大学部、高校、中学校及びこども園を擁する熊本県下唯一の女子教育の総合学園となっています。これも、ここに至るまでの先達達の並々ならぬご尽力と学園関係者の皆様のご支援によるものであり、心から感謝申し上げます。

昨今、学校教育を取り巻く環境は大きく変化し、厳しさが増してきています。私どもは、創立130周年の節目を迎えたのを機に、「建学の精神」「教育理念」の原点に立ち戻って、本学の使命を改めて自覚し、本学の強みや特色を一層深掘りして、今後の持続的発展に向けて確りとした対応をして行かなければならないと決意を新たにしています。一連の創立130周年記念事業は、こうした観点から企画し、1年間に亘って実施してまいりました。本学園広報誌「礎」の130周年記念特集号の発刊は記念事業の締め括りとして位置付けられています。皆様のご協力により、無事に意義ある記念事業を終えることができ、厚く御礼申し上げます。



学校法人尚絅学園
理事長 池満 淵



中学・高等学校



大学・短大(九品寺)



大学・短大(武蔵ヶ丘)



尚絅
アリーナ



附属こども園

Vol.30 CONTENTS

創立130周年を振り返って……巻頭	
130周年に寄せて……………	P3～P4
建学の精神／教育理念……………	P5
全学グランドデザイン／ 行動規範……………	P6
130周年記念事業のまとめ……	P7～P12
学校紹介／キャンパス……………	P13～P20
130年のあゆみ……………	P21～P32
役員・評議員・ 在籍教職員一覧……………	P33～P34

尚絅学園後援会



尚絅学園後援会
会長 堀尾 慎彌

尚絅学園の創立130周年を心よりお祝い申し上げます。

尚絅学園は明治21年に創設された済々黌附属女学校を源に、以来130年の永きに亘り一貫して女子教育に心血を注ぎ、建学の精神である「智と徳を兼ね備え社会に貢献し得る女性の育成」に努めてこられました。

ひと言で130年と言いますが、熊本市の誕生が明治22年のことですから、尚絅学園は熊本市の発展とともに歴史を積み重ねてきたわけであります。

そして今も、尚絅大学短期大学部附属こども園、尚絅中学校、尚絅高等学校、尚絅大学短期大学部、尚絅大学と5つの設置校を擁する熊本県内唯一の女子総合学園として、熊本県教育界になくはならない存在であり、幾多の学生・生徒・園児を世の中に送り出し続けています。

この長い歴史の中で、尚絅学園後援会は昭和51年8月に発足し、43年目を迎えました。後援会発足の趣意書では「国家の盛衰も国民の教育の良否にかかわるとする先師の信条は万古不易のものであると信じて疑いません。特に私学の受持つ教育上の使命は極めて重且つ大でありまして、国公立に比しその数において圧倒的に多く、また、内容におきましても優れたものを有していますことは、各位の知悉のところであります」と述べた上で「反面、私学はその独自性を守らねば、私学としての特色はなくなりますことを忘れてはなりません」と述べています。これらの思いから尚絅学園後援会は発足され今日に至っており、我々はこの思いを常に持ち続け、尚絅学園の一層の発展のために、これからも活動を続けてまいります。

尚絅学園が女子総合学園としての誇りと使命を持ち続け、益々発展されますことを心より祈念して祝辞とさせていただきます。

尚絅学園花桜会



花桜会
会長 都 芳子

私達の母校「尚絅学園」が創立130周年を迎え、去年、記念シンポジウムが開催されました。同窓会「花桜会」一同、大いなる喜びとともに、心よりお祝い申し上げます。

明治21年済々黌附属女学校として創立され、明治24年独立して私立尚絅女学校と改称、その後、幾たびの変遷を経て、今日の尚絅学園が築かれていることは、卒業生としても、喜びであり誇りです。私達は、尚絅で学んだ卒業生として、母校を愛し、お教え頂いた先生方への感謝を忘れず、これからも同窓生としての心の絆を大切に、同窓会活動を続けてまいります。新たなる尚絅の未来に向かって、共に努力し、発展を願い応援を続けてまいります。

尚絅高等女学校同窓会は、明治32年に設立され、昭和3年「花桜会」と名称を定めています。歴史と伝統を受け継ぎ、本年(2019年)120周年を迎えます。母校の発展に協力し、会員相互の親睦を図ることを大切に活動しています。

長い間には戦争や敗戦、戦後の食糧難等、時代の背景の厳しさを乗り越え、大切に受け継がれてきた尚絅精神の素晴らしさを改めて次世代に伝える責任を感じます。母校も将来に向けて大きく変革し、立派な校舎や図書館が新築され、恵まれた環境の下、一貫した女子教育の充実を整えられました。母校の発展は同窓生の誇りです。それと共に生徒の皆様のスポーツ・文化面の活躍は同窓生の最も大きな喜びです。生徒の皆様の各方面のご活躍を応援しています。輝かしい歴史が未来まで続くよう願っています。

今年、「120周年記念同窓会」を行います。沢山の皆様のご参加お待ちしております。

「尚絅学園花桜会設立120周年記念同窓会」
日時:2019年6月5日(水)10時～
会場:熊本ホテルキャッスル

短期大学部同窓会



短期大学部同窓会
会長 森下 ひろ子

尚絅学園の創立130周年お祝い申し上げます。1888年創立の歴史ある学園は女子教育の先駆けとして、「尚絅」の二文字で教育理念が表現されています。かつての時代を懐かしみながら現在は学園の改革が進み、各分野への進出と共に華やいた新しい校風へと輝いて見えます。良い環境のもと人間形成を培い、今日に至り発展を遂げています。女子教育のために道なき道を開拓し教育の基盤を確立され、多くの学生の輝きと幸せをお導き頂き著名人の輩出と共に、学園の成し遂げられた貢献と教育の姿勢に感謝申し上げます。尚絅の存在と価値は互いに響き合い「尚絅らしさ」を誇りに教育と経済の分野で更に飛躍していけることを祈念し、お祝いの言葉と致します。

学園が130周年という節目を迎えた今年、私たち短期大学部同窓会もまた創立65周年という節目を迎えました。情報の発信や組織の活性化で将来を見つめ、活動を進めています。創立130周年記念シンポジウムと共に総会を開催いたしました。又、ホームカミングデイでは、共に学び舎で過ごした仲間と懐かしい思い出を語り合い、130周年のお祝いにふさわしい記念の同窓会となりました。三科合同で和気藹藹と学生時代を振り返り、楽しく過ごすことができましたこと、心から感謝申し上げます。

復興へはまだ道半ばではありますが、震災時のボランティア活動では、多くの学生の活躍に触れ、心動かされました。今後の地域社会へも大きく貢献されることを益々期待しております。尚絅大学短期大学部で学んだこのご縁を大切に、年度・年齢の垣根も飛び越え、さらに大きな輪を共に作っていきたいと思います。

今後の同窓会活動へのご理解とご協力、そしてご参加を心よりお待ちしております。

大学同窓会



大学同窓会
会長 石原 京子

尚絅学園創立130周年、おめでとうございます。平成30年5月13日九品寺キャンパスにて開催された記念シンポジウム、ホームカミングデイに参加させていただいて、私どもが卒業した尚絅大学が、いかに素晴らしい学びの場であったか再確認いたしました。

智と徳を兼ね備え、社会に貢献し得る女性の育成に130年を費やしてきた我が尚絅、実に素晴らしいと思います。

私ども尚絅大学同窓会はその中の40年を共に過ごしてまいりました。坂東眞理子氏も言われたように、21世紀の人材、強く、賢く、美しく、という講演から、私たちもまだまだ21世紀を支えるために尚絅学園とともに活動してまいります。

2019年、本同窓会は、同窓生並びに恩師各位のご支援により、記念すべき創立40周年を迎えることになりました。創立40周年を迎えるにあたり、総会・祝賀会・華甲の会(還暦4回生)を同時開催することに致しました。本年は特に多くの恩師そして級友がご参集下さる予定ですので、どうぞ皆様お誘いあわせの上、奮ってご参加いただきたくお願い申し上げます。心ゆくまで旧交をあたため、会を盛り上げたいと存じます。

「尚絅大学同窓会創立40周年記念大同窓会」
日時:2019年6月8日(土)11時～
会場:ザ・ニューホテル熊本

同窓会は、この大同窓会・華甲の会を成功させるために準備をしているところです。また、毎年ホームカミングデイや学園祭において、先生方や現役の学生さんと交流を深め、同窓会の活動を楽しんでおります。

建学の精神

「智と徳を兼ね備え社会に貢献し得る女性の育成」

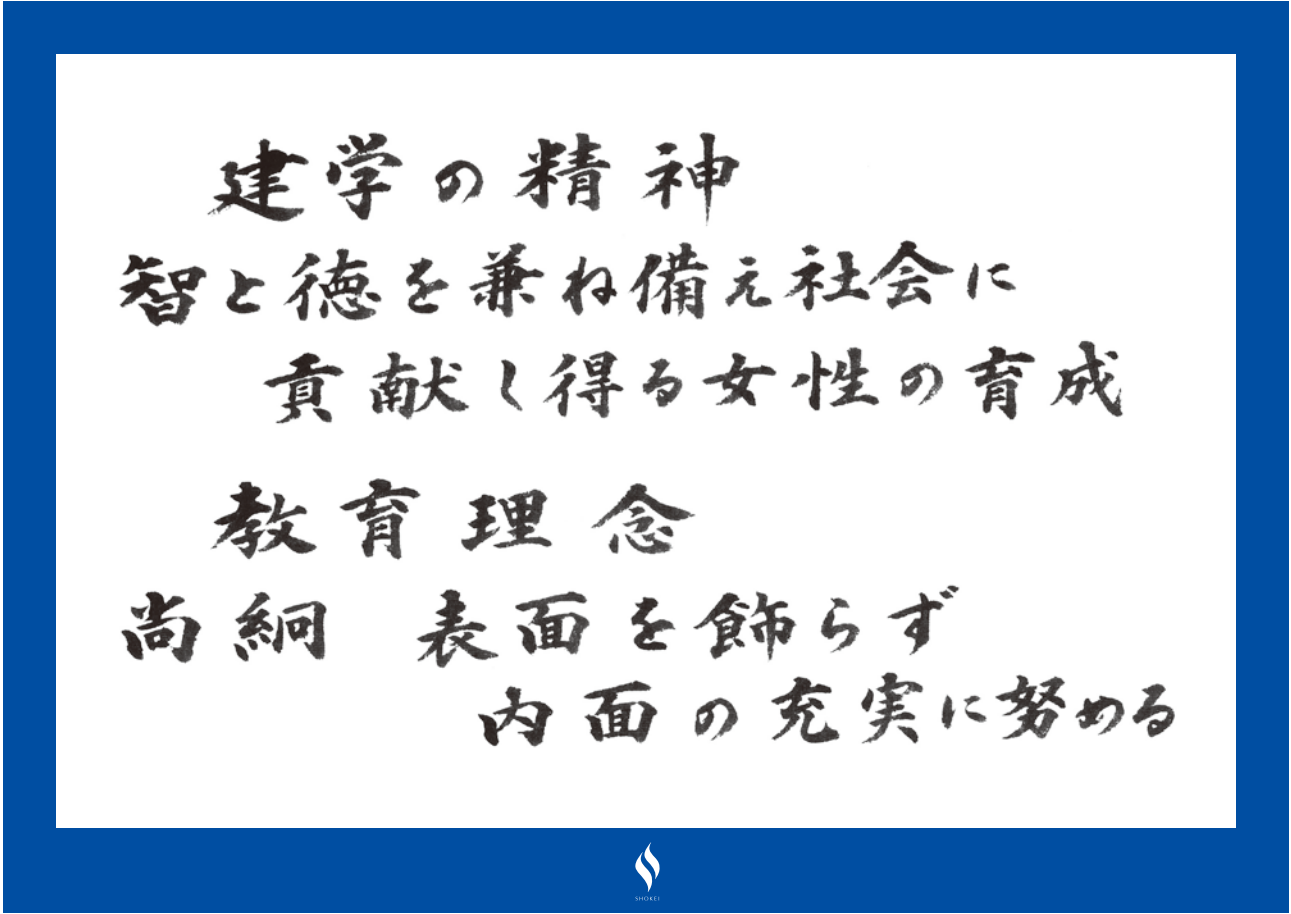
本学園は、明治21(1888)年に創設された済々黌附属女学校をその源としており、同校創設に際して創立者の佐々友房らが遺した「済々黌附属女学校創立ノ主旨」の中には、女子教育の必要性、女子教育の理念などについて縷々述べてあり、その中から建学の精神を表す箇所について要約したものです。

教育理念

「尚綱 表面を飾らず内面の充実に努める」

本学園は、校名である「尚綱」の二字に凝縮された言葉をもって教育の理想の姿とし、本学園の教育理念としています。

「尚綱」とは、中国の古典『中庸』の一節、「衣錦尚綱」(錦を衣て綱を尚ふ)、すなわち、錦を着た場合はその上から薄物をかけ、きらびやかな模様を表に出さないようにするという君子の道のあり方を説いた句に由来しています。この句には、表面を飾らず内面の充実に努めるという、人としての心構え、あり方が含意されています。



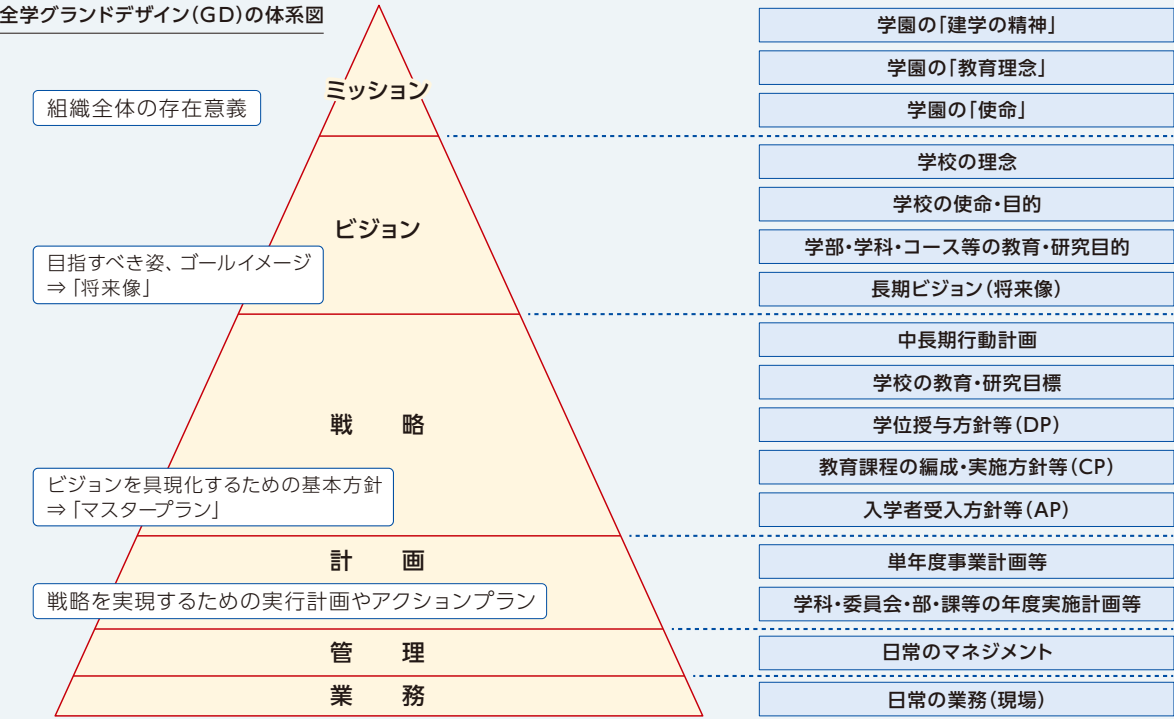
(書：久多見 健/尚綱大学文化言語学部名誉教授)

全学グランドデザイン

全学グランドデザイン(GD)の制定

本学園を取巻く環境は今後さらに厳しくなるとともに、一段と加速することが予想される中、社会に支持される学園・学校であり続けるためには、絶えず教育・研究の維持・向上を図り、弛まぬ改革・改善に取り組む必要があります。そのためには、進むべき方向を明確にし、既に策定している中長期行動計画や単年度事業計画の見直しと立案を適切に行い、着実に計画を推進していかなければなりません。

その一環として、今回「全学グランドデザイン(GD)」を策定することにより、学園全体の建学の精神や教育理念、使命、各学校の理念、使命・目的及び目標、更には学則、中長期行動計画をはじめとする諸計画や3つのポリシー、方針等の位置付けを明確にし、今後の学園並びに各設置校の教育・研究及び経営の管理・運営の指針とすることとしました。



学校法人尚綱学園 行動規範(抄)

学校法人尚綱学園(以下、「学園」という)は、建学の精神、教育理念のもと、教育機関としての公共性と社会的使命を果たしつつ、学園の持続的な発展を図るため、役員及び教職員が遵守すべき行動の基準・指針として、ここに行動規範を定めます。

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 建学の精神、教育理念に基づく人材の育成 | 7. 健全な学園環境の構築 |
| 2. 高い倫理観を持った研究活動 | 8. 自然環境への配慮 |
| 3. 開かれた学園づくりと社会貢献 | 9. 資産・資金等の適正な管理・運営 |
| 4. 法令等の遵守 | 10. 公正かつ適正な入学者選抜 |
| 5. 人権・人格の尊重 | 11. 自己点検・評価の実施 |
| 6. 情報の公開と保護・管理 | |

創立130周年記念シンポジウム

平成30年5月13日(日)尚絅アリーナにおいて創立130周年記念シンポジウムを開催しました。第一部は、『女性の品格～21世紀の人材:強く、賢く、美しく～』をテーマに、学校法人昭和女子大学理事長・総長 坂東眞理子氏をお招きし、基調講演を行い、第二部では、尚絅大学・尚絅大学短期大学部学長森正人がコーディネーターを務め、『いま、なぜ、女子教育か』をテーマに、坂東眞理子氏、学校法人福岡女学院理事長 十時忠秀氏、筑紫女学園大学学長 中川正法氏、尚絅中学・高等学校校長 秦すみ子の5名によるパネルディスカッションを行いました。

当日はご来賓、一般の方をはじめ、学生、生徒及び保護者、同窓会、本学教職員、合わせて約1,800名にご参加いただきました。

■開催日／平成30年5月13日(日) ■場所／尚絅アリーナ

第1部 基調講演「女性の品格～21世紀の人材:強く、賢く、美しく～」

〈講演者〉学校法人昭和女子大学 理事長・総長 坂東眞理子氏

第2部 パネルディスカッション「いま、なぜ、女子教育か」

〈パネリスト〉学校法人昭和女子大学 理事長・総長 坂東眞理子氏

〈パネリスト〉学校法人福岡女学院 理事長 十時忠秀氏

〈パネリスト〉筑紫女学園大学 学長 中川正法氏

〈パネリスト〉尚絅中学・高等学校 校長 秦すみ子

〈コーディネーター〉尚絅大学・尚絅大学短期大学部 学長 森正人



創立130周年記念芸術鑑賞会オペラ「蝶々夫人」

平成30年11月22日(木)熊本県立劇場において創立130周年記念芸術鑑賞会オペラ「蝶々夫人」を開催しました。蝶々夫人役に東京二期会正会員になられたソプラノ歌手福島由記氏、ピンカートン役に日本トップテノール歌手の笛田博昭氏、シャープレス役に熊本シティオペラ協会代表で本公演総監督の佐久間伸一氏が務められました。間近で鑑賞するオペラは迫力があり、声量や表現にも驚かされ、「真の愛」と信じる蝶々夫人のピンカートンへの一途な純愛に涙する方もいらっしゃいました。ご来賓の方をはじめ、学生、生徒及び同窓会、本学教職員及び一般公募の招待の方合わせて、約1,800名にご鑑賞いただきました。



創立130周年記念尚絅食育推進シンポジウム

平成31年1月13日(日)に創立130周年記念尚絅食育推進シンポジウムを開催しました。基調講演、研究報告、パネルディスカッションでは、こどもの未来を拓く保育・食育を目指し、保育現場における保育者と給食担当者が連携した食育推進について考えました。保育関係者をはじめ、学校関係者、行政関係者の皆様に多数ご参加いただきました。



- 開催日／平成31年1月13日(日)
- 場 所／九品寺キャンパス大学1号館10階ホール

第1部 基調講演
「食育と保育をつなぐ」
〈講演者〉認定こども園武庫愛の園幼稚園
園長 濱名清美氏

第2部 研究報告
「幼児を対象とした
尚絅食育推進プロジェクト」

第3部 パネルディスカッション
「保育現場における
こどもの食改善の取り組みと課題」

創立130周年記念尚絅公開講座



平成30年9月3日(月)から9月7日(金)の5日間、創立130周年記念尚絅公開講座を開講しました。

今年度は、学園創立130周年を記念し、文学・食生活・マンガ・子どもの教育・終活、それぞれの教育・研究分野の原点を見定め、歴史を振り返りながら、最新の研究動向もわかりやすくご紹介しました。また閉講式後には受講者と講師の懇談会も開催しました。公開講座は、本年度で30回目となり、受講者の方にも大変好評でした。

親子三代表彰・座談会

平成30年5月13日(日)に九品寺キャンパスにて親子三代表彰及び座談会を開催しました。本学に親子三代四代で通われていた17組の表彰者の皆様には池満理事長より感謝状と記念品が贈られました。9組のご家族の皆様にご出席いただいた座談会では、尚絅で学んだことや印象に残ったこと、当時の学校生活や子どもに伝えたいことなど沢山語っていただきました。歴史と共に変わっていく写真をみながら、会場全体が笑い声に包まれました。



創立130周年記念ホームカミングデー

今年度は創立130周年記念シンポジウムと同日の平成30年5月13日(日)に九品寺キャンパスにて第6回ホームカミングデーを開催しました。施設の一部をカフェや交流会、資料の展示場として解放し、大学1号館前には屋外テントブースを設け、あげパンや和菓子、クレープやオリジナルアイスクリームなどを販売しました。当日は雨にも関わらず沢山の方にご参加いただきました。



創立130周年を記念した食品の開発 ～オリジナルアイスクリーム～

尚綱大学・尚綱大学短期大学部は、尚綱学園創立130周年を記念して、熊本の農産品やヘルシーな成分にこだわったオリジナルアイスクリーム（尚綱桜豆乳アイスクリーム）を開発しました。このアイスクリームは、本学教員および学生とアイスクリーム製造販売業者株式会社ついんスター（菊池市）が共同でレシピ開発したものです。大豆イソフラボンなどの健康成分を含み、管理栄養士を目指す女子大生が『自分たちで食べたい!』と思う、味も美味しく、見た目にもこだわったヘルシーでかわいいアイスクリームに仕上げました。このアイスクリームは平成30年11月24日（土）と25日（日）に開催された尚綱祭の2日間、期間限定で240カップ販売し、完売しました。



創立130周年記念募金

「尚綱学園創立130周年記念募金」－教育・研究の施設、設備充実のための募金－

学校法人尚綱学園は、平成30年に創立130周年を迎えました。

本学園は、明治21年に女学校として創立され、現在では、大学、短期大学部、高校、中学校及びこども園を擁する熊本県下唯一の女子総合学園となっています。これもひとえに皆様方の格別のご支援とご協力によるものと深く感謝申し上げます。

近年、学校を取り巻く環境は、少子高齢化、高度情報化、グローバル化の急速な進展、産業構造・就業構造の変化等により、厳しさを増してきております。こうした状況下、学園では、ここ数年来、教育研究、管理・運営面での改革を漸次進めてまいりましたが、未だ道半ばの状況で、今後改革を加速してまいらなければなりません。これに伴い、教育・研究の施設、設備面においても、一層の整備、充実を急ぐ必要があります。そのためには、確りした財務基盤が必要であり、学園におきましても経費節減、業務効率化に努めてはおりますが、広く学内外の方々のお力添えも得て資金を安定的に確保いたしたく、「尚綱学園創立130周年記念募金」をさせていただくことにいたしました。

以上の趣旨をおくみいただき、厳しい経済情勢下ではありますが、どうか皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

学校法人 尚綱学園 理事長 池満 淵

「尚綱学園創立130周年記念募金」－教育・研究の施設、設備充実のための募金－

□募金目標額 第1期 30,000,000円 □募集期間 第1期 2018年4月1日～2021年3月31日（3年間）
第2期 20,000,000円 第2期 2021年4月1日～2023年3月31日（2年間）

□申込及び振込方法、税制上の優遇措置について、詳しくは尚綱学園のホームページをご覧ください。

【お問い合わせ先】学校法人尚綱学園 学園事務局総務部経理課 寄附金担当
〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6番78号
【TEL】096-364-0116 【FAX】096-363-6520 【E-mail】keiri@shokei-gakuen.ac.jp

尚綱学園マスコットキャラクターお披露目・表彰式



平成30年5月13日（日）尚綱アリーナにて創立130周年記念シンポジウム終了後にサプライズでマスコットキャラクターのお披露目及び表彰式を行いました。尚綱学園マスコットキャラクターのデザインを学内募集したところ、応募総数はなんと279作品でした。1次選考で10作品が選ばれ、学生・生徒・教職員の総選挙による最終選考が行われました。最優秀賞に選ばれたのは尚綱高等学校の石本真菜さんがデザインした「花くま」。受賞者の名前が読み上げられると客席から大きな歓声が上がり大変盛り上がりました。今後「花くま」は尚綱学園の広報で沢山活躍していく予定です。

受賞者

最優秀賞

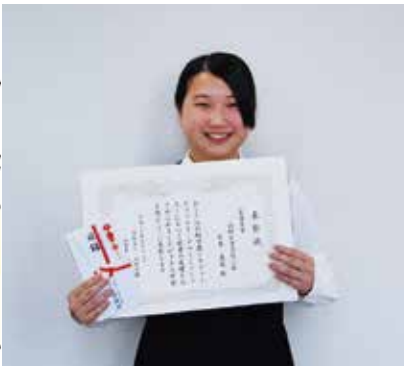
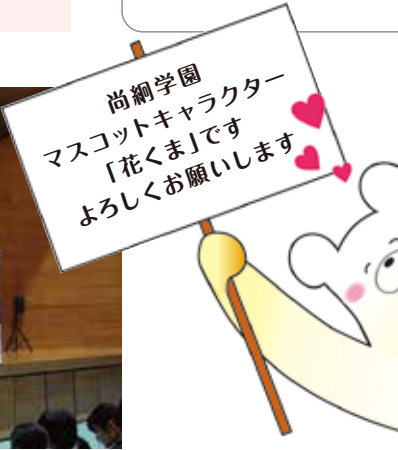
尚綱高等学校 石本真菜
キャラクター名「花くま」

優秀賞

尚綱高等学校 武ほの花
キャラクター名「しのりん」

優良賞

尚綱高等学校 久保田紗邑里
キャラクター名「ころんちゃん」



創立130周年記念ロゴ

尚綱学園創立130周年を記念し、ロゴマークを作成しました。

ロゴマークは漢字の「百三十」をモチーフにデザインしたもので、丸い形で総合学園としての一体化を表しています。

このロゴマークは封筒や名刺、学園の広報で使用いたしました。



尚綱大学

現代文化学部 文化コミュニケーション学科

2018年4月
文化言語学部文化言語学科より改組

「文化」に関する4つの領域を組み合わせることで学び、「文化」のスペシャリストを育成

さらなる高度情報化とグローバル化が進む社会において、必要とされる人材を育成するために、2018年4月に現代文化学部文化コミュニケーション学科を新設しました。

「情報メディア文化」「観光文化」「日本・東アジア社会文化」「文芸文化」の中から異なる2つの文化領域を学ぶことにより相乗効果が高まり、広範な専門的知識が深まるとともに、さらに職業選択の幅も広がられます。



- 4つの専門領域から2つを組みあわせて、文化を多面的に学ぶ
 - 専門性とジェネリックスキルを、バランスよく学ぶ
 - チームワークを生かして、協力して問題を解決する力を育成
 - 日本語運用力と実践的な外国語(英語・中国語・韓国語)運用力を育成
- <取得可能な資格>
- ・司書
 - ・社会調査士
 - ・プレゼンテーション実務士
 - ・観光ビジネス実務士
 - ・日本語教師(大学認定)



尚綱ビブリアバトル2018

高校生を対象とした「尚綱ビブリアバトル2018」を2018年10月に開催しました。発表者がお気に入りの本を5分間で紹介し、参加者全員の投票により「一番読みたい本」(チャンプ本)を決める書評大会です。今後も、さまざまな「文化」に関わる催しを実施し、高校生や地域の方々との交流に努めます。



生活科学部 栄養科学科

高度な専門知識と実践技能を兼ね備えた管理栄養士を育成

健康と食のあり方を広い視野から深く教育研究することにより、食・栄養に関する先進的な専門知識と実践技能を身につけ、自律性・対話力・思考力を兼ね備えた専門家として、栄養教育、栄養管理、食育等を通して広く社会に貢献できる人材を育成します。



- 高度な専門知識と実践力、豊かな人間性をもつ管理栄養士の育成
- 実験や研究をサポートする充実した設備環境
- しっかりとしたサポート体制に裏づけられた高い管理栄養士国家試験合格率

- <取得可能な資格>
- ・管理栄養士国家試験受験資格
 - ・食品衛生監視員(任用資格)
 - ・食品衛生管理者(任用資格)
 - ・栄養教諭一種免許状
 - ・栄養士免許



地域の強みを活かした社会貢献 ～食品・レシピ開発～

食品関連企業や自治体、東海大学九州キャンパス等との連携事業を通して、地産地消や健康志向を重視した農産物加工品やレシピの開発に取り組んでいます。また、各種レシピコンテストへの応募の機会を活かして、学生の実践力を高めるとともに、考案したメニューの提供による地域貢献を推進しています。この他、本学部で得られた学修・研究成果を積極的に地域に発信しています。

2017年(日本糖尿病協会主催)
「糖尿病いきいきレシピコンテスト」
審査員奨励賞 受賞

県内農産物を活用した糖尿病食のレシピを学生が考案

菊陽町広報誌「きくよう」
「恋する野菜」
ほうれん草のシフォンケーキ

菊陽町産の農産物の特徴を活かしたメニューやスイーツを毎月広報誌で紹介

尚絅大学短期大学部

短期大学部 総合生活学科

一人ひとりに目が届く少人数教育によって、
ビジネス界で活躍する華のあるキャリアウーマンを育成

医療事務・情報ビジネス、福祉ウェルネス、生活デザインの3領域の基礎を総合的に
学び、専門的な知識や技能を身に付け、即戦力として活躍できる人材を育成しています。



PCや情報社会、健康や福祉、生活に関連する科目を幅広く学ぶことで、時代のニーズに合った対応力や自己表現力を養う

ブライダル、アパレル、インテリア、福祉関連などの地域フィールドワークで豊かな人間性とスキルを磨く

公務員、銀行・生命保険会社、ホテル・旅行業、福祉施設職員、医療事務員などへの就職のほか、大学編入も可能

<取得可能な資格> 上級秘書士(医療事務)、秘書士、情報処理士、介護職員初任者研修課程資格、社会福祉主事(任用資格)、レクリエーションインストラクター



地域貢献活動
～地域にがまだせプロジェクト～

本学科では、ボランティア活動にも力を入れています。
学生が地域の高齢者や障害者福祉施設、コミュニティーセンター等に出向き、積極的に世代間交流事業に取り組んで地域貢献活動を行っています。



病院の敬老会でフラを披露 「おはじきゴルフ大会」で地域の方と交流 ウォーキングを行いながら、多世代交流

2017年には、熊本県健康づくり県民会議の「平成29年度熊本県県民会議表彰」を受賞

短期大学部 食物栄養学科

幅広い知識・技術・能力を身につけた
実践力のある栄養士を育成

「食と栄養と健康」をキーワードに、健康づくりの担い手としての思いやりと責任感を併せ持ち、卒業後直ちに社会で活躍できる幅広い知識・技術・能力を身につけた実践力のある栄養士を育成しています。



即戦力として学校・保育所、病院や事業所の現場や食品産業などで活躍できる専門性の高い有能な栄養士を育成

学校・保育所、病院や事業所などでのトータル3週間に亘る充実した校外実習を実施

管理栄養士の取得を目指して、特別推薦枠がある本学生活科学部を始め、管理栄養士養成課程を有する大学へ編入することも可能

<取得可能な資格> 栄養士免許(国家資格)、社会福祉主事(任用資格)、フードサイエンティスト(2018年度入学者から導入)
※食品衛生監視員・食品衛生管理者の任用資格が2019年度入学者から取得可能になります。



本学科では正課の授業以外での教育活動にも力を入れています

- (1) リメディアル教育
学科での学修に入学後スムーズに対応できるよう、理系科目の入学前教育を実施しています。また、入学後には栄養士として必要不可欠な調理技術の獲得を目指した補習教育にも力を注いでいます。
- (2) リカレント教育
管理栄養士の資格取得を目指す栄養士の勉学をサポートするために毎年9月に夏期研修会を開催しています。



人参を使って切り込みを練習 夏期研修会

2019年度入学者から「製菓実習」が開講されます！

短期大学部 幼児教育学科

子どもを理解する力を身につけ、
子どもの主体性を重視した実践ができる保育者を養成

附属こども園実習をはじめとする実習と講義・演習などの授業において、子ども・現場の保育者・学生・教員が互いに触れ合いながら「子どもへの理解」を深め、「子どもの主体性」を尊重し、子どもの気持ちに寄り添うことのできる保育者を養成しています。

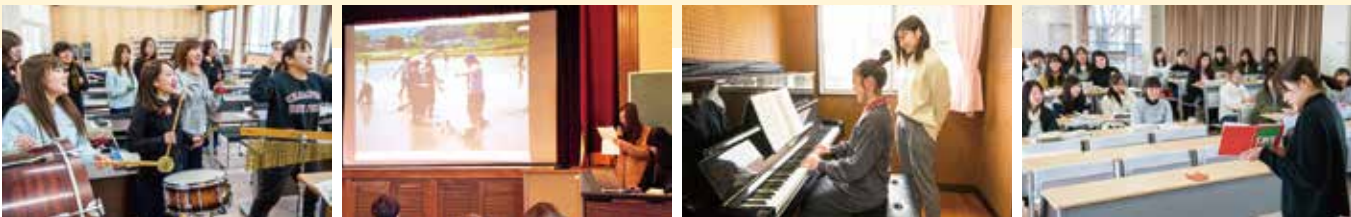


2年間で2つの資格(保育士、幼稚園教諭)を取得し、保育者となる夢を実現

幼稚園教諭・保育士養成課程の新基準に対応したカリキュラムを整備

ゼミ形式で一人ひとりの個性を伸ばし、特色のある保育者を養成

<取得可能な資格> 幼稚園教諭二種免許状、保育士資格(国家資格)、社会福祉主事(任用資格)



サマーセミナー

幼児教育学科では例年8月に、尚絅子育て研究センター主催の公開シンポジウムに合わせてサマーセミナーを開催しております。これは尚絅大学短期大学部の公開講座として位置づけられており幼稚園、保育所、認定こども園、施設等の保育者が多数参加されています。平成30年度は保育現場の課題を的確に捉えた7つの講座を開講し、充実した研修を行うことが出来ました。



実践! わらべうた 保育現場に求められる保護者支援についてディスカッション

尚絅中学校 尚絅高等学校

総合コース

学業と課外活動の両立により、自己の進路に応じた確かな知識・技能を養います。

将来の自分の可能性を探り、“なりたい自分”へ向かって学べるコースです。勉強だけでなく、クラブ活動や生徒会活動、ボランティア活動などに力を注ぐことが可能で、多彩な取り組みをサポートします。“それぞれが自分の目標に向かって一生懸命頑張る”。それが総合コースです。

自分の目標に向かって、充実した時間を確保

将来の夢の実現に向けた、クラス編成とカリキュラム

自分の可能性を探りながら、多彩な進路選択

女子総合学園だから可能となる、大学との連携



特進コース

国公立及び難関私立大学を目指し、応用・展開のできる学力を涵養します。

少人数編成のもと国公立大学・難関私立大学への合格を目指し、生徒たちの能力を最大限に伸ばすことを目的としたコースです。月曜から金曜まで、朝課外を含めて1日8時間の授業と放課後の課外授業が行われます。特に1年次は、苦手科目の克服に重点を置き、生徒一人ひとりのニーズに柔軟に対応できる戦略的な学習指導を行います。より高い目標を実現するための充実したサポート体制が魅力のコースです。

夢の実現へ向け充実した学習時間

全国模試受験後の徹底した指導

目標を叶える充実したサポート体制



中高一貫コース

自立した社会人となるための
しっかりとした基礎を育みます。

中高6年間という安定した環境の中で、豊富な時間をフル活用し、大学受験に対応できる十分な学力と、日本文化や礼法、さらに高い英語力などを身につけた国際的に活躍できる人材の育成を目指します。

少人数教育によるきめ細かな進学指導と
自ら学び前進する意欲の涵養

社会のグローバル化に対応できる英語教育の充実

環境共生のための 生命・環境・エネルギー教育の推進

豊かな人間性を育む教育の推進



グローバル化を目指して



中学・高校では、異文化や日本文化の理解を基に、グローバル化に対応できる人材を育成しています。外国人教師と触れ合う環境に加え、高大連携授業の中国語・韓国語講座では、歴史・民俗・風土を知り、より深く多角的に学ぶことができます。また姉妹校の韓国鶴城（ハクソン）中学校との交流も行っています。

2014～2018全国大会に出場した主な部活動



剣道部



ソフトテニス部



陸上部



弓道部



水泳部



和装礼法部



ギター・マンドリン部



将棋同好会

幼保連携型認定こども園
尚絅大学短期大学部附属こども園

豊かな自然と遊び文化を継承しながら
自然の事象や動植物に親しみ、命を大切にする気持ちを育てています。

主体性と人間性を培う
教育・保育

様々な素材を使って主体性と人間性を培い、子どもたちの活動意欲を引き出します。



新聞紙を使った主体的で、活動意欲旺盛な遊び



木の実や葉っぱを使った創作活動

豊かな自然を活用した
創造力を育てる教育・保育

豊かな自然の中での遊びや体験学習により、自立心を養い、情操豊かで自ら遊びを作り出す創造力を育てます。



土と水を使った遊びがウォータースライダー遊びに発展



自分たちで育てた大根を収穫し、大根パーティーを開催

大学・短期大学部と連携した
教育・保育の実施

幼児教育学科や熊本大学教育学部と連携した、年中年長組の体力テストや、食物栄養学科と連携した「幼児の味覚」調査などを行い、保育に反映させています。



大学からの支援を受けて実施した体力テスト



大学の食の専門家と連携した天然だし汁を用いた味覚調査

日本の伝統文化や調理体験を重視した
食育活動の推進

地域の人たちを招いた「餅つき大会」や、自分たちで栽培した野菜を使った「野菜バーベキュー」などの調理体験等を通して「食」への関心を高めます。



地域の人たちとの餅つき大会



こども園の菜園で収穫した夏野菜を使ったバーベキュー

保護者・地域に開かれた子育て支援

こども園に移行して3年が過ぎます。尚絅こども園は、50年近くの幼稚園としての幼児教育の伝統も継承しつつ、こども園の使命として本園保護者はもちろん、地域の子育て支援に積極的に関わっています。特に子育て支援室「どんぐりルーム ころころ」は、尚絅大学・尚絅大学短期大学部の子育て研究センターや幼児教育学科と連携し、豊富なスタッフの協力も得て「地域に開かれた子育て支援室」として親しまれています。

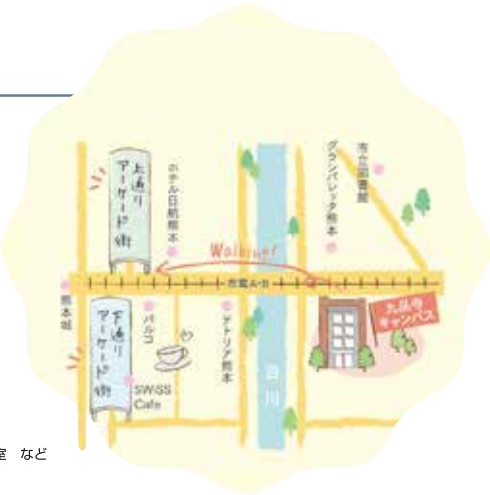
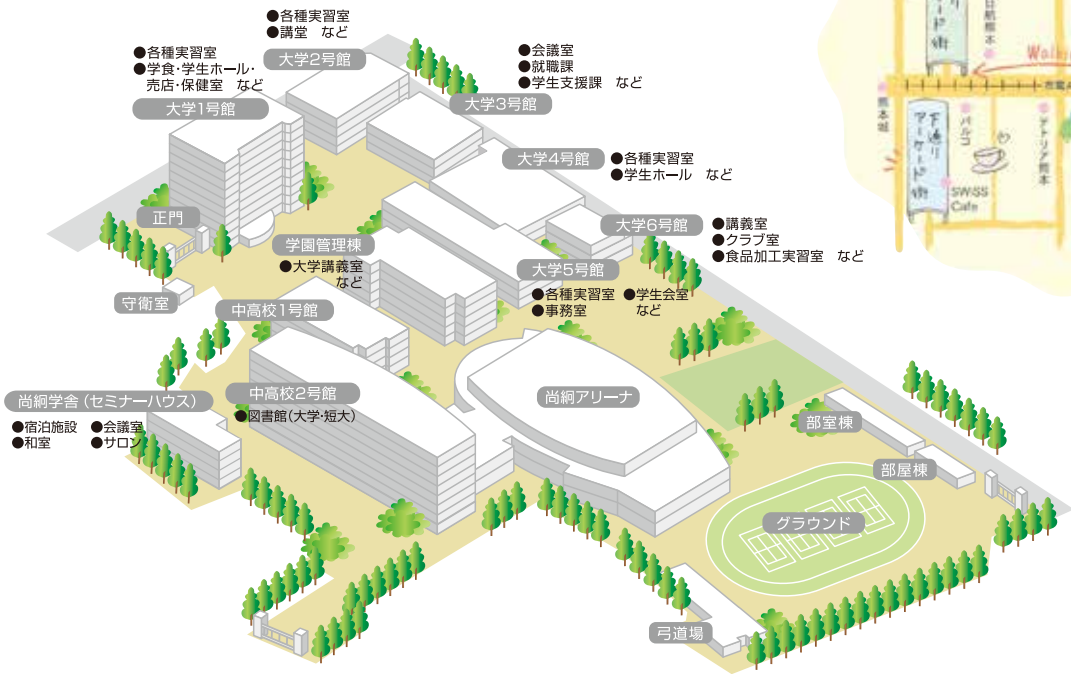


幼児教育学科の先生を招いての粘土体験

尚絅学園の2つのキャンパス

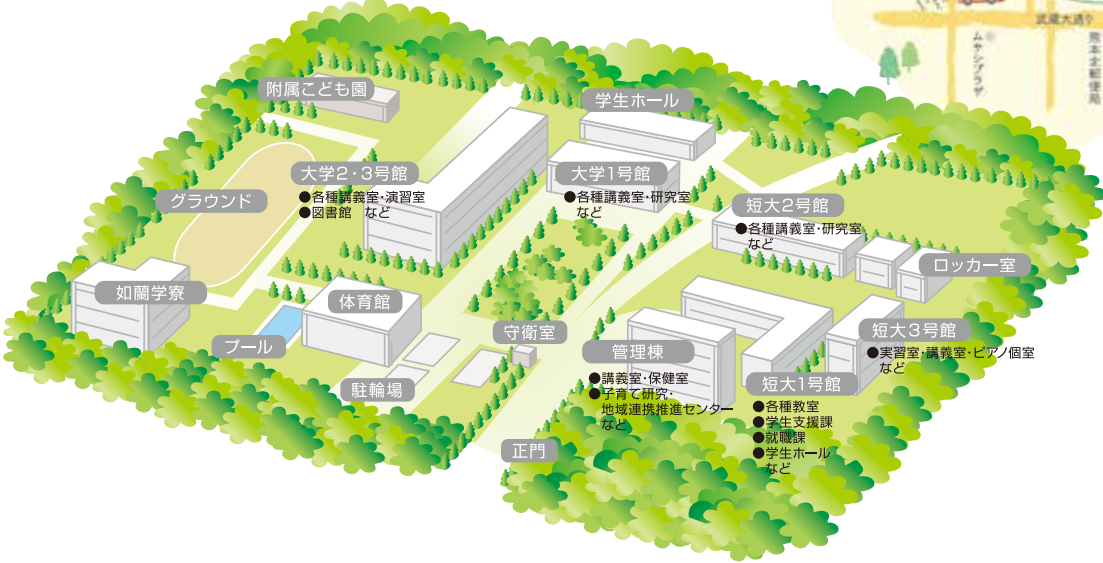
九品寺キャンパス

〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6番78号



武蔵ヶ丘キャンパス

〒861-8538 熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北2丁目8番1号



学校沿革

1888年 5月 ● 済々黉附属女学校として熊本市昇町に開校、創立者佐々友房、初代校長内藤儀十郎、校舎31坪生徒数23名
(明治21年)

1889年 5月 ● 昭憲皇太后から「ひらけゆくまなひの窓のはなさくら 世に匂ふへきはるをこそまて」の御歌を女子教育奨励の意味をもって下賜される
(明治22年)

1891年10月 ● 済々黉から独立して尚絅女学校と改称
(明治24年)

1920年11月 ● 飽託郡大江村九品寺(現在地)に移転
(大正9年)

1928年11月 ● 尚絅中学・高等学校の制服を制定
(昭和3年)

1929年 4月 ● 尚絅五ヶ条制定
(昭和4年)

1931年11月 ● 県下女学校の代表校として天皇の行幸を迎える
(昭和6年)

1940年10月 ● 尚絅中学・高等学校の校旗を制定
(昭和15年)

1947年 4月 ● 学制改革によって尚絅中学校発足
(昭和22年)

1948年 4月 ● 新制の尚絅高等学校となる
(昭和23年)

1952年 4月 ● 熊本女子短期大学開学、家政科を設置
(昭和27年)

1960年 6月 ● 創立70周年記念事業として体育館落成
(昭和35年)

1967年 4月 ● 熊本女子短期大学家政科を家政科家政専攻と家政科食物栄養専攻に分離
(昭和42年)

1968年 4月 ● 熊本女子短期大学幼児教育科を清水校地(現:武蔵ヶ丘キャンパス)に設置
(昭和43年)

1969年 4月 ● 熊本女子短期大学付属幼稚園開園
(昭和44年)



創立者 佐々友房



初代校長 内藤儀十郎



本校旧校舎



制服制定



昭和天皇行幸



体育館



清水校地(現:武蔵ヶ丘キャンパス)

1975年 4月 ● 尚絅大学開学、文学部(国文学科・英文学科)を設置、熊本女子短期大学を尚絅短期大学と改称
(昭和50年)

1985年 5月 ● 第36回全国植樹祭時、阿蘇野草園にて昭和天皇の御前で尚絅高校マンドリンクラブが「はなしのぶの歌」を演奏
(昭和60年)



尚絅高校マンドリンクラブ

1985年12月 ● 昭和天皇から「はなしのぶの歌しみじみ聞きて生徒らの心は花の如くあれと祈る」の御製を下賜される
(昭和60年)

1988年 4月 ● 尚絅高等学校管理棟(九品寺校地)落成
(昭和63年)



高等学校管理棟(現:中高1号館)



創立100周年記念式典

1988年 5月 ● 学園創立100周年記念式典挙行
(昭和63年)

2000年 4月 ● 尚絅短期大学子育て研究センター設置
(平成12年)

2005年 3月 ● 附属幼稚園園舎竣工
(平成17年)



附属幼稚園園舎

2006年 3月 ● 尚絅大学九品寺1号館竣工
(平成18年)



尚絅大学九品寺1号館

2006年 4月 ● 尚絅大学生生活科学部栄養科学科設置
文学部国文学科及び英文学科を文化言語学部文化言語学科に改組
尚絅短期大学を尚絅大学短期大学部、
幼児教育科を幼児教育学科と改称
家政科を総合生活学科と食物栄養学科に改組
(平成18年)

2011年 4月 ● 中高一貫教育開始
(平成23年)

2011年12月 ● 尚絅中高校2号館竣工、尚絅学舎竣工
(平成23年)



尚絅中高校2号館



尚絅学舎

2012年12月 ● 尚絅アリーナ竣工
(平成24年)



尚絅アリーナ

2013年 1月 ● 尚絅学園ロゴマークを制定
(平成25年)



SHOKEI

2013年 4月 ● 長期ビジョンと中長期行動計画制定
(平成25年)

● 【中学・高等学校】新制服制定

5月 ● 学園創立125周年記念式典挙行

● 125周年記念
育英奨学寄附金募集開始

● 第1回ホームカミングデー開催



第1回ホームカミングデー



125周年記念式典



● 【尚綱子育て研究センター】
尚綱短期大学子育て研究センターを尚綱子育て研究センターに改組

8月 ● 【高等学校】全国高等学校総合文化祭器楽・管弦楽部門出場



全国高等学校総合文化祭

2014年 4月 ● 【高等学校】
(平成26年) 和装礼法部
全日本きもの装い
コンテスト世界大会
「装いの女王」入賞



世界大会装いの女王

● 明治神宮昭憲皇太后百年祭にて御歌掛軸出品



掛軸「昭憲皇太后御歌」
(千種任子 浄書)

2014年 4月 ● 【大学・短大】
(平成26年) 尚綱食育研究センター設置

● 【大学・短大】
尚綱ボランティア支援センター設置

5月 ● 【尚綱食育研究センター】
熊本パルライス(株)との連携企画
“水の恵み”米を使った新商品「米平燕(マイピーエン)」考案



「TKUの日」でオリジナル弁当「米平燕」を販売



大人気で長蛇の列



熊本城マラソンボランティア

7月 ● 【大学・短大】
仁徳大学校(韓国)との
交流協定締結



仁徳大学校(韓国)学生との交流の様子

8月 ● 【高等学校】
全日本高等学校ソフトテニス選手権大会
女子団体の部 第3位入賞



全日本高等学校ソフトテニス選手権大会

11月 ● 【大学・短大】
慈済大学(台湾)との交流協定締結



慈済大学(台湾)学生との交流の様子

2014年12月 ● 【尚絅食育研究センター】
(平成26年) 第1回尚絅学食レシピコンテスト開催(～毎年開催)

歴代グランプリレシピ



野菜たっぷり200g!!
4種の味で食べよう



地震になんか負けないぞ!
熊本野菜の復興ランチ



ひご野菜を使った
アイデアカレー



トマトでさっぱり!!
栄養満点トマト担々麺

● 【尚絅食育研究センター】
「食べれば元気!!!九州のやさい・くだもの」
シンポジウムを九州農政局と共催



パネルディスカッションの様子

2015年 4月 ● 【大学・短大】
(平成27年) 尚絅地域連携推進センター設置

● 【尚絅子育て研究センター】
乳児保育研究会開催
(毎月開催中)



保育現場の実践報告をもとに共同研究を実施

5月 ● 【尚絅食育研究センター】
「ミズベリング白川74」参加



「学食レシピコンテスト」の優秀作品「ハニージンジャー♡彩りチキン丼」を限定販売



6月 ● 【大学・短大】
菊陽町との連携協力に関する包括協定締結



すぎなみフェスタ やさいクイズや栄養指導などを実施

● 【大学・短大】
合志市との連携協力に関する包括協定締結

2015年 6月 ● 【大学】
(平成27年) 大津町議会広報編集特別委員会との
連携協力に関する包括協定締結(文化言語学部)



大津町の議会だより制作に学生が参加

● 【高等学校】
ギター・マンドリン部
第1回はなさくら
コンサート開催



第1回はなさくらコンサート

7月 ● 【尚絅食育研究センター】
第1回郷土料理教室開催
(～毎年開催)



熊本の郷土料理「豆だこ」と地元野菜を使った「ナスの和風サラダ」作り



8月 ● 第38回火の国まつり「おもてやん総おどり」参加



中高及び短大、大学の生徒・学生、教職員約150名が参加

2016年 1月 ● 【尚絅食育研究センター】ホテルメルパルク熊本との「美ランチ」共同開発
(平成28年)



和食



洋食

● 【高等学校】
和装礼法部
くまもと県民文化賞(夢部門)受賞

2月 ● 附属こども園園舎竣工

4月 ● 「全学グランドデザイン(GD)」制定



くまもと県民文化賞 表彰式

2016年 4月 ● 大学所在地の変更及び楡木キャンパス所在地・名称の変更
(平成28年)

● 【附属こども園】
尚絅大学短期大学部附属幼稚園を幼保連携型認定こども園へ移行

● 熊本地震両キャンパスにおいて多大な被害を受く



被災直後の学内(4月16日)

● 熊本地震復興支援基金

● 【尚絅ボランティア支援センター】
災害ボランティア活動実施



ハンドマッサージで被災者ケア

無料食器市を開催



益城町で炊き出し支援に参加

6月 ● 【尚絅ボランティア支援センター】
長崎国際大学ボランティアセンターとの
連携プロジェクト開始



学生同士の交流

8月 ● 【中学校】
韓国鶴城(ハクソン)
女子中学校との姉妹校締結



韓国鶴城女子中学校との調印式

2016年 9月 ● 【大学・短大】菊陽町商工会との連携協力に関する包括協定締結
(平成28年)

10月 ● 「NHK公開復興サポート明日へin熊本」開催



「明日へつなげるコンサート」



「屋外エリア 物販・展示」



「屋外特設ステージ マンドリン部演奏」

● 【尚絅地域連携推進センター】
『菊陽町で異文化「体感」
～菊陽・ニンジンmeets韓国・台湾～』開催



菊陽町特産のニンジンを使った
「台湾風マンゴーキャロットプリン」と
「韓国風デミ」作り

● 【大学】
肥後おおづ観光協会との
連携協力に関する包括協定締結(文化言語学部)



大津町「地蔵祭」で運営サポート

● 熊本地震に伴う
災害復旧工事進む



災害復旧工事

2017年 1月 ● 学校法人尚絅学園 行動規範制定
(平成29年)

2017年 3月 ● 【大学・短大】
(平成29年)
熊本市との連携協力に関する
包括協定締結



熊本市との調印式

4月 ● 【大学・短大】
学修支援センター設置
就職・進路支援センター設置

● 【中学・高等学校】
中高一貫コース
国際エコ認証
「グリーンフラッグ」取得



国際エコ認証「グリーンフラッグ」取得

7月 ● 【大学・短大】
LINE開設

8月 ● 【大学・短大】
熊本市主催ビジネスカレッジ「熊本元気塾」で講演



第一部
「『おいしさ』を科学する～生存に欠かせぬ感覚～味覚」
(川上育代准教授)



第二部
「どちらを選ぶ?～食べたいものと健康に良いもの～」
(秋吉澄子講師)

● 【尚綱ボランティア支援センター】
みやぎ招へいプログラム参加



熊本での活動を発表

2017年12月 ● 【尚綱食育研究センター】
(平成29年)
「食育アイランド九州」交流会を九州農政局と共催



食育アイランド九州交流会の様子



10階ロビーにおけるパネル展示

● 【高等学校】
全国高等学校総合文化祭 音楽専門部 県代表選考会
器楽部門 ギター・マンドリン部「金賞」受賞



序曲「レナータ」演奏



受賞後の集合写真

2018年 3月 ● 【大学】
(平成30年)
公益財団法人日本高等教育評価機構による
平成29年度大学機関別認証評価を受審し適合認定

● 【短大】
一般財団法人短期大学基準協会による
平成29年度第三者評価を受審し適格認定

4月 ● 尚綱シャトルバス運行開始



尚綱シャトルバス1号車・2号車

● 【大学】
文化言語学部文化言語学科を
現代文化学部文化コミュニケーション学科に改組

5月 ● 創立130周年記念シンポジウム、
ホームカミングデー、親子三代表彰・座談会、
尚綱学園マスコットキャラクターお披露目・表彰式開催

● 【大学・短大】
全学部・全学科2年連続就職率100%達成



きめ細やかな就職支援により
2年連続就職率100%達成

2018年 6月 ●
(平成30年)

【高等学校】

休暇村南阿蘇「阿蘇野草園」
第1回みなみ阿蘇
「野の花コンサート～はなしのぶ～」開催
ギター・マンドリン部演奏



野の花コンサート～はなしのぶ～

● 【中学・高等学校】

第27回くまもと環境賞
「くまもと環境教育賞」受賞



くまもと環境教育賞授賞式



トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム
事前学習会及び壮行会

● 【高等学校】

トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム高校生コース第4期派遣留学生選抜

● 【大学・短大】

天草地区漁業士会との
食育推進活動実施に関する協定締結



魚のさばき方<郷土料理教室>

7月 ●

【大学・短大】

東海大学九州キャンパスとの
交流及び連携に関する包括協定締結



東海大学九州キャンパスとの調印式

● 【大学】

トビタテ留学JAPAN「地域人材コース」に
2名採用(文化言語学部)

九品寺キャンパス大学1号館前
テラススペースにテーブル・イス設置

8月 ●

【高等学校】

平成30年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)
陸上女子個人5,000m競歩優勝



陸上女子5000m競歩優勝

Dream100 2018作文コンテスト
最優秀学校賞受賞

● 【尚綱子育て研究センター】
保育Café開始(毎月開催中)



気軽に話せる集いの場「保育Café」

9月 ●

創立130周年記念尚綱公開講座開催

2018年10月 ●
(平成30年)

【大学・短大】

東海大学&尚綱大学「農食サイエンスカフェ」開講



農食サイエンスカフェレクチャーの様子
「免疫力を上げる食生活」(坂田敦子教授)

11月 ●

創立130周年記念芸術鑑賞会開催
オペラ「蝶々夫人」～熊本シテリオペラ協会公演～

● 【尚綱食育研究センター】

味千ラーメンとのコラボメニュー「キャロットのコンフィチュールセット」
～女子大生の考えたにんじんの楽しみ方～販売



菊陽町特産のニンジンを使ったコラボメニューを
味千ラーメンで販売(2018.11月～3月)



「あか牛ビビンバ丼」



「あか牛とトマトのすきやき丼」

● 【尚綱食育研究センター】

西日本高速道路サービス・ホールディングス(株)九州支社、
九州産交リテール(株)とのコラボメニュー開発

12月 ●

【附属こども園】

熊本県木材利用大型施設コンクール
「熊本県賞」受賞



● 【附属こども園】

くまもとアートポリス推進賞
「推進賞選賞」受賞

2019年 1月 ●
(平成31年)

【大学・短大】

創立130周年記念尚綱食育推進シンポジウム開催

2月 ●

【尚綱地域連携推進センター】

「熊本から考える
コンテンツ・ツーリズムの可能性」
パネルディスカッション開催



講演「コンテンツ・ツーリズムとは何か」



パネルディスカッション

● 【大学・短大】

上海杉達学院(中国)との交流協定締結

3月 ●

学園広報誌「礎」Vol.30 学園創立130周年記念特集号発刊

役員・評議員・在籍教職員一覧

平成31年1月1日現在

尚綱学園役員・評議員	
役員	
理事長	池 満 洲
常務理事	黒 瀬 英 夫
理事	森 正 人
理事	秦 す み 子
理事(非常勤)	伊 豆 英 一
理事(非常勤)	堀 尾 愼 彌
理事(非常勤)	中 島 照 明
理事(非常勤)	都 芳 江
理事(非常勤)	秋 岡 廣 宣
監事(非常勤)	宮 田 房 之
監事(非常勤)	丸 岡 敏 郎
評 議 員	
評議員	森 正 人
評議員	秦 す み 子
評議員	岡 原 安 利
評議員	石 原 功 次
評議員	川 口 恵 子
評議員	久 野 恭 義
評議員	豊 永 一 好
評議員	蓮 尾 美 保
評議員	高 野 文
評議員	平 川 智 美
評議員	西 尾 あ け み
評議員	篠 原 なおみ
評議員	松 藤 美 貴
評議員	堀 尾 愼 彌
評議員	池 満 洲
評議員	中 島 照 明
評議員	小 山 英 文
評議員	吉 川 尚 代
評議員	秋 岡 廣 宣
評議員	黒 瀬 英 夫

尚綱学園教職員一覧

尚綱大学	
学長・教授	森 正 人
学長補佐・教授	坂 田 敦 子
学長補佐・教授	川 口 恵 子
大学事務局長	岡 原 安 利

文化言語学部 文化言語学科 (武蔵ヶ丘キャンパス)	
学部長・教授	林田 俊一郎
教授	武 田 昌 憲
教授	桑 原 芳 哉
教授	所 吉 彦
教授	畠 山 真 一
准教授	宇 野 文 重
准教授	岡 田 則 浩
准教授	ジョシュ・ノーマン
准教授	黄 蘊
准教授	福 永 美 佳
准教授	山 川 仁 子
講師	金 承 珠
講師	柚 木 繁 之
助教	川 上 知 里
助教	水 谷 智 彦
助教	山 本 歩

現代文化学部 文化コミュニケーション学科 (武蔵ヶ丘キャンパス)	
学部長・教授(兼務)	林田 俊一郎
教授	釜 賀 誠 一
教授	竹 下 裕 俊
教授	中 川 明 夫
准教授	北 口 英 穂
准教授	三 浦 知 志

生活科学部 栄養科学科 (九品寺キャンパス)	
学部長・教授	徳 富 芳 子
教授	坂 田 敦 子
教授	下 村 裕 史
教授	田 口 誠 一
教授	田中 眞知子
教授	田 中 將 之
教授	守 田 真 里 子
准教授	狩 生 徹
准教授	川 上 育 代
准教授	川 野 美 智 代
准教授	木 村 宏 和
准教授	小 島 志 乃 ぶ
准教授	渡 邊 和 美
講師	大 柿 恵 子
助教	當 房 浩 一
助手	田 上 愛
助手	古 澤 知 里
助手	本 田 智 巳
助手	松 田 菜 那
助手	松 原 愛 衣
助手	本 村 恵 理 子
助手	吉 永 恵 美

尚綱大学短期大学部	
学長・教授(兼務)	森 正 人
学長補佐・教授(兼務)	坂 田 敦 子
学長補佐・教授(兼務)	川 口 恵 子
短期大学部部長・教授	菊 池 秀 彦
大学事務局長(兼務)	岡 原 安 利

総合生活生活学科 (九品寺キャンパス)	
学科長・教授	中 嶋 弘 二
教授	川 口 恵 子
准教授	川 崎 孝 明
准教授	高 橋 文 徳
講師	河 村 諒
講師	小 松 美 和 子
助教	佐 土 原 洋 平

食物栄養学科 (九品寺キャンパス)	
学科長・教授(兼務)	菊 池 秀 彦
教授	長谷川 佳代人
教授	森 正 人
准教授	小 野 要
准教授	相 良 剛 史
講師	秋 吉 澄 子
講師	本 田 順 子
助教	原 田 香
助手	小 林 康 子
助手	小 椋 綾 乃
助手	柴 田 文

幼児教育学科 (武蔵ヶ丘キャンパス)	
学科長・教授	小川内 哲生
教授	柴 田 賢 一
教授	曾 田 裕 司
教授	横 山 博 之
准教授	市 川 文 子
准教授	柿 原 一 貴
准教授	片 桐 真 弓
准教授	栗 川 直 子
准教授	坂 本 健
准教授	竹 下 徹
准教授	増 淵 千 保 美
准教授	森 み ゆ き
准教授	安 村 由 希 子
助教	佐 藤 亮 平
助教	二 子 石 諒 太
助教	本 吉 菜 つ み

武蔵ヶ丘キャンパス 事務部	
事務部長兼就職課長	島 崎 三 和 子
教務課長	今 村 貢
庶務会計課長兼 学生支援課長	松 本 敏 昭
教務課長補佐	菊 川 智 志
武蔵ヶ丘図書館係長	田 中 仁 美
入試係長	古 澤 洋 平
事務職員	石 村 奈 緒 子
事務職員	板 楠 い づ み
事務職員	恵 村 友 梨 香
事務職員	甲 斐 実 織
事務職員	小 松 野 愛
事務職員	島 崎 真 理 子
事務職員	塚 本 馨 子
事務職員	宮 川 藍
事務職員	丸 林 璃 那
実習助手	小 林 ま ど か
実習助手	高 本 眞 喜
実習助手	中 嶋 彩 乃
実習助手	古 田 海 南 子
守衛	児 玉 公 彦
守衛	日 迫 隆

九品寺キャンパス 事務部	
事務部長兼入試課長	碓 塚 光 雲
教務課長	長 谷 川 新 吾
庶務会計課長兼 学生支援課長	吉 田 貴
教務課長補佐	石 嶋 和
庶務会計課長補佐	片 野 田 要
就職課長補佐	市 原 智 恵
学生支援課係長兼 就職課係長	村 上 悠
入試アドバイザー	甲 斐 正 哉
入試アドバイザー	前 田 三 千 治
事務職員	荒 木 佐 江
事務職員	倉 岡 裕 美 子
事務職員	滋 野 奈 津 美
事務職員	武 末 佳 奈 子
事務職員	永 田 睦 実
事務職員	西 村 奏 美
事務職員	兵 頭 佐 知 子
事務職員	堀 部 梨 咲 子
事務職員	増 本 紗 希
事務職員	村 上 史
事務職員	山 下 雅 史
実習助手	稲 葉 え り
実習助手	西 山 真 由
実習助手	野 中 桃 子
実習助手	眞 崎 愛
実習助手	松 本 萌 々 華
実習助手	森 口 裕 子

大学企画室	
大学企画室長(兼務)	岡 原 安 利
大学企画室係長	山 田 博 史
事務職員	緒 方 将 人
事務職員	木 庭 敦 子

尚綱高等学校	
校長	秦 す み 子
教頭	石 原 功 次
教諭	水 政 行 弘
教諭	石 井 亜 紀 子
教諭	岩 村 佳 好 子
教諭	内 山 勝 博
教諭	梅 田 博
教諭	緒 方 将 洋
教諭	皆 本 祐 希
教諭	清 田 輝 之
教諭	黒 木 梢
教諭	坂 口 か お る
教諭	重 信 弘 子
教諭	白 石 学 嗣
教諭	杉 本 智 子
教諭	左 座 誠 司
教諭	田 中 宗 範
教諭	田 中 義 道
教諭	谷 脇 卓
教諭	恒 松 伸 康
教諭	長 倉 伸 子
教諭	中 園 宏 一 郎
教諭	西 口 裕 美 子
教諭	西 山 公 啓
教諭	林 し の ぶ
教諭	古 舘 竜 子
教諭	外 田 仁 士
教諭	松 田 沙 也 加
教諭	松 永 康 彦
教諭	松 野 多 恵 子
教諭	宮 原 裕 美 子
教諭	森 聡 美
教諭	山 田 美 穂 子
教諭	吉 田 恵 士 郎
講師	川 上 有 紗
講師	坂 本 健 一
講師	松 木 茜 西
講師	宮 村 信 也
講師	山 下 慶 介
講師	山 本 愼 太 郎
養護教諭	起 田 裕 子

尚綱中学校	
校長(兼務)	秦 す み 子
教頭(兼務)	石 原 功 次
教諭	山 田 昭 雄
教諭	佐 藤 直 美
教諭	新 納 ゆ り か
教諭	野 中 吏 恵
教諭	村 上 由 華
講師	渡 邊 竜 己

(職位/50音順)

中高事務室	
中学・高校/事務長	島 村 宏
高校/係長	澤 田 衣 里
高校/事務職員	豊 田 恭 英 子
高校/事務職員	内 藤 春 香
高校/事務職員	中 村 信 子
高校/事務職員	平 野 李 奈
中学/事務職員	石 原 優 花

尚綱大学短期大学部 附属こども園	
園長	後 藤 誠 司
副園長	今 村 和 可 奈
主幹教諭	千 代 延 久 美 子
主幹教諭	根 本 亜 佐 子
教諭	上 原 理 子
教諭	江 藤 夏 美
教諭	大 倉 美 佳
教諭	大 山 和 香 奈
教諭	亀 山 柚 果
教諭	合 志 冴
教諭	古 賀 志 保
教諭	坂 下 真 代
教諭	高 村 真 由 美
教諭	立 山 純 子
教諭	窪 田 麻 衣 子
教諭	永 野 京 香
教諭	沼 田 智 子
教諭	藤 井 美 咲
教諭	増 田 宏 美
教諭	光 永 美 奈
教諭	森 川 千 章
教諭	森 山 里 咲
教諭	森 田 絢 子
教諭	山 下 つ か さ
教諭	山 田 晶 代
教諭	吉 田 恵

内部監査室	
内部監査室長	竹 本 尚 平

学園事務局	
学園事務局長(委)	黒 瀬 英 夫
総務部長兼 経理課長	久 野 恭 義
総務課長	玉 田 俊
総務課長補佐	古 澤 千 鶴
経理課長補佐	平 峰 哲 郎
経理係長	河 津 知 幸
事務職員	木 村 杏 莉
事務職員	小 佐 井 達 也
事務職員	田 尻 一 成
事務職員	田 中 克 典
事務職員	松 高 有 里
事務職員	山 下 亜 美
守衛	坂 口 和 久
守衛	松 岡 勝 男

内部監査室	
内部監査室長	竹 本 尚 平

尚綱大学短期大学部 附属こども園事務室	
こども園事務長	隈 部 毅 広
こども園係長	栗 崎 み どり
事務職員	溝 口 佳 代 子
管理栄養士	赤 星 亜 希
運転手	豊 留 幹 男
運転手	深 草 浩
運転手	古 川 雅 道